

研究・調査報告書

報告書番号	担当
519	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名（原題／訳）	
Smoking and alcohol intake as risk factors for myelodysplastic syndromes (MDS). 喫煙と飲酒が骨髄異形成症候群（MDS）が及ぼす危険因子について	
執筆者	
Du Y, Fryzek J, Sekeres MA, Taioli E.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Leuk Res. 2010 Jan;34(1):1-5. Epub 2009 Sep 10. Review.	
キーワード	
骨髄異形成症候群（MDS）、分類、疫学、危険因子	
目的： 骨髄異形成症候群（MDS）は、血球細胞の骨髄形成が中断する病気の多様なグループを含んだものを総称する。治療的に関する情報は非常に多いにもかかわらず、集団の変動と危険因子を含む MDS の疫学についてわかっていない。	
方法： 発表された文献とメタアナリシスの評価によって、喫煙・アルコールと MDS の関連を記載する鍵となるレポートを特定してまとめられた。	
結果： 1839 の症例群と 2831 の対照群があり、喫煙・飲酒と MDS の関連を見た 10 の症例対照研究があった。これまでに喫煙と MDS の関連のメタ推定は異質性の研究（ $p = 0.05$ ）と公表された根拠のないバイアスも併せた全体のもので、1.45 であった（95%信頼区間：1.21 - 1.74）であった。飲酒と MDS の関係は、745 のケース群と 1642 の対照群を含む 5 つの研究において調べられている。重要な異質性（ $p = 0.003$ ）と公表された根拠のないバイアスも併せた全体の関連は、1.31（95%信頼区間：0.79 - 2.18）であった。 公表された論文の再分析は飲酒と MDS が主な病因と考えられない間、喫煙が MDS とかなり関係していることを強く示唆した。	
結論： 暴露の生物マーカーを取り入れている大規模疫学調査は、メタアナリシスとともに、より生活様式の因子の分析が MDS の発展に寄与するために必要である。	